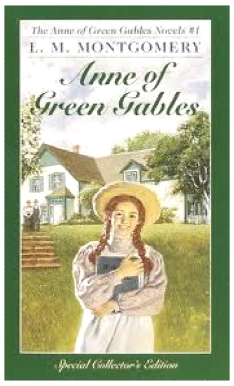
BookTalk

編集・発行　　海南高校図書部
第１７号　２０１３．１．２９

藪添先生・お風呂で読書もいいもんだ！

赤毛のアンって究極のポジティブシンキング！

何か『赤毛のアン』と聞くと児童書みたいなイメージが沸く人が多いと思いますが、私がアンの小説を読み始めたのは、結構大人になってからです。もともと私の母親自身が生まれてすぐに両親を失くしたという境遇がすごくアンと似ていて、『赤毛のアン』は母にとって特別な物語でした。



中学生の時、妹とお小遣いを出し合って母の誕生日にシリーズ全１０巻をプレゼントしたのですが、その時は自分で読む気はさらさらなく、当時人気のあった新井素子や氷室冴子の小説に夢中でした。時が経ち、仕事に就くようになり、少し時間に余裕ができた時、ふと手に取ったのが自分がプレゼントしたその本でした。それまで本で読んだことはないものの、世界名作劇場というアニメシリーズ（今の高校生達は知らないと思いますが）で見た、アンとギルバートの行く末がちょっと気になったこともあり何気なく読み始めたわけなんですが、村岡花子さんの訳の素晴らしさも手伝って、夢中になって『アンの娘リラ』まで一気に読んでしまいました。現在は『アンの想い出の日々』という赤毛のアン誕生１００年を機に刊行された１１巻もあるそうです。因みに訳は村岡花子さんのお孫さん。

アンの魅力は何といっても、元気になれる言葉が散りばめられていることだと思います。その中で特に心に響いたのは大学の教授が卒業式で述べた言葉です。

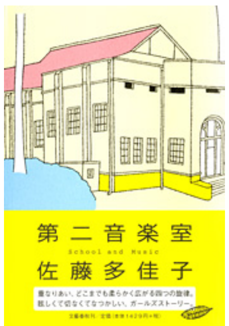
「ユーモアは人生の饗宴においての最も風味に富んだ調味料である。自分の失敗を笑い、そしてそこより学べ　自分の苦労を笑い草にしつつ、そこから勇気をかきあつめよ　困難を笑い飛ばしながら、それに打ち勝て」

失敗だらけの私にとって本当に勇気の沸く言葉でした。失敗を真剣に受け止めるが、深刻にならないこと。失敗するとどうしても次の一歩が出にくくなりますが、勇気をもって前向きにチャレンジし続けることが大切なんですね。

「一生懸命やって勝つことの次にいいことは、一生懸命やって負けること」なども好きな言葉です。これは奨学金獲得を目指して努力し尽くしたアンが、試験の結果に気を揉む友達に対し、美しい一日の光景に心を奪われながら、翌日の試験を前にやるだけのことはやった、という満足感をもって言った言葉です。はじめはあまり共感できなかったのですが、大学４回生の時にクラブ活動を通して「あぁこのことだったんだな。」と思える瞬間があり、やっと理解できました。やりきったという達成感を味わった時に、初めてわかる言葉かもしれません。他にも心に響く言葉がたくさんあり、今では私にとっても特別な物語となりました。今でも、時々読み返しては勇気をもらっています。そしてこれは、高校生のみんなへ。

「人生は広くもなれば狭くもなる。それは人生から何を得るかではなく、人生に何を注ぎ込むかにかかっている。」　（　アンの青春より　）

私は、気分転換に本を読むことが多く、時間があるときは、お風呂に本を持って入ります。専用のブックスタンドも買いました。長い時は、湯船から出たり入ったりしながら２時間ぐらいお風呂で読書します。

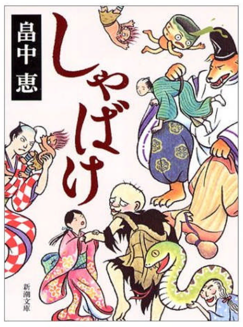


もちろんタオルと水の入ったペットボトル持参で。身体の疲れも取れるし、すごくリフレッシュできて、また次の元気が沸いてきます。基本的にあまりドロドロしたのは苦手で、読んだ後爽快になれる本が好き。最近の本では佐藤多佳子さんの『一瞬の風になれ』がおススメです。高校生が主役の物語で、スポーツをしている人は特に共感できると思います。同じ著者で『第二音楽室』もいまどきの子達の感覚が上手く描かれていて興味深かった。前回、藤田先生も紹介していた、三浦しをんさんの『風が強く吹いている』も、こんなに上手くいけばいいよな～と思いつつも引き込まれた作品でした。やっぱりサクセスストーリーはモチベーション上がります。

小川糸さんの『食堂かたつむり』や、群ようこさんの『かもめ食堂』なんかもほっこりできて大好きです。特に『かもめ食堂』はお気に入りで、読むたびに料理と旅行がしたくなります。映画も素敵ですよ。

旅行といえば村上春樹さんの『遠い太鼓』という本も、読むたびに海外に興味が湧いてきます。これは、どうしても長い旅に出たくなった村上春樹さんが１９８６年から１９８９年までの３年間、３７歳から４０歳になるまでに、ギリシャ、イタリアなどの各地に移り住みながら小説を書き、その仕事の合間に書かれた旅行スケッチをベースに加筆してまとめられた本だそうです。『ノルウェイの森』もその３年の間に誕生したとのこと。やはり、海外でも評価の高い村上さん、スケールが違いますね。

私は、「遠くから太鼓の音が聞こえてきたから」といって長い旅には出られませんが、海外に行くならシャーロックホームズの部屋があるイギリスのベーカー街や、赤毛のアンの住んでいたグリーンゲイブルズがあるカナダのプリンスエドワード島など、大好きな物語の舞台となったところに行きたい。初めて行った場所でも思い入れがある所って、なんだかお得だし、観光していてもワクワク度が違う気がします。どちらもお金と時間がかかりますので、いつになるかわかりませんが死ぬまでに一度は行ってみたいと思っています。



他には、時代ものもよく読みます。宮部みゆきさんの本は現代ものも何冊か読みましたが、何といっても時代ものが最高。小さい頃から祖父と一緒に「水戸黄門」や、「大江戸捜査網」を見て育ったせいかも知れませんが、やっぱり江戸時代の人情の厚さや、粋な言葉まわしにグッときてしまいます。『霊験お初』や『ぼんくら』シリーズがすごく面白いですよ。もう少しライトな感じだと畠中恵さんの『しゃばけ』シリーズも読みやすくていいですね。可愛いあやかし（妖怪）たちが大活躍しています。テレビでもＮＥＷＳの手越くん主演でドラマ化してました。

文豪といわれた人の本や、重いテーマのすごく感情を揺さぶられるような本も読みたいとは思うのですが、結構体力をつかうので、退職して時間ができたら気合を入れて読もうと思っています。本でなら海外どころか宇宙にも行けるし、探偵にもなれる。自分の知らない価値観にも出会えます。疲れた時こそ読書でリフレッシュしましょう。

ただ、お風呂に持って入る時は熱中症に注意してくださいね。

（　保健体育科　藪添順子　）